



めいしょう



2015. 2
第153号

だより



まだまだ寒さが厳しいですが、このところ日が長くなったように思えます。皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて今回は昨年の12月より松戸めいせいの施設長に就任された工藤施設長にお話を伺って参りました。

<松戸めいせい>

☆最初に一言お願い致します。

この度、松戸めいせいの施設長に就任しました工藤と申します。宜しくお願い致します。



工藤 誠 施設長

☆松戸めいせいのコンセプトを教えてください。

ご入居頂いている方々の個々の希望をよく聞き、実現する施設であり続ける事です。

☆最後に介護に対する思いを教えてください。

施設勤務するうえで自分が目指すものは「入居者様にとって何の気兼ねもしない気持ちのいい環境」を整える事です。入居者様が「どうぞ無理だから」と思われていた事が実現したら・・・その一瞬が私達のやりがいとなり次へと繋がります。



←松戸めいせいの皆様

後列左から

樋口事務員

倉光相談員

太田調理主任

田淵機能訓練指導員

前列左から

羽鳥ケアマネージャ

山田調理師

工藤施設長

<http://www.fukushi-e.com>

ホームページはこちらから



シリーズ 介護の現場から vol.9



「シリーズ介護の現場から」認知症ケアについて考える。

9回目の今号も、皆様と認知症について考えてみたいと思います。前号では、私たち特定施設の今後において、認知症入居者が急激に増加する傾向にある事を述べさせていただきました。今号より特定施設で行われる認知症介護の実際を紹介させていただきたいと思います。平成27年度は、介護保険法改正の重要な年となります。実は、介護保険法の改正に伴い110以上の関係法も改正され、総合戦略としての基礎となっています。その中でも私たち介護サービス事業者にとって重要なものとして介護報酬改定も実施されるわけですが、平成27年度介護報酬改定の基本的考え方となる三項目として

①中重度の要介護者や認知症高齢者への対応のさらなる強化

②介護人材確保対策の推進

③サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築

が謳われています。ご存じのとおり、認知症高齢者の数は現在においても370万人とも言われており、今後団塊の世代が全員75歳後期高齢者となる2025年において65歳以上高齢者の認知症罹患度Ⅱ以上は470万人になると推計が出ています。ちなみに65歳以上高齢者数は2042年にピークとなり、75歳以上高齢者が全人口に占める割合は2055年には25%を超える推計も出ています。つまり、認知症高齢者の数は爆発的に増加することが明確になっており、国としてもこの対策が急務なことは明らかです。今までの介護は、寝たきりの方、認知症の方、お元気な方等の括りによってサービス内容を考慮されてきましたが、今後の地域包括ケアにおいては、地域という平面的な括りとする事で介護問題を一般化しようとするものです。その中でも認知症の方の生活を地域で支えるという理念をどのように捉えるか、地域住民一人一人に問いかけてもいるわけです。

認知症ケア専門家 西岡伸介



入居者様達の

笑顔も絶えません。

職員との距離も近く和やかな空気が流れます。

